

常磐大学・常磐短期大学 地域連携活動事例集



常磐大学地域連携研究支援センター

主な活動内容

地域との連携

P.4 ~ P.16

活動等の名称	頁	教育・国際化	地域振興	公共	経済・商品開発	健康・医療・福祉	文化・スポーツ	食物・栄養
1. 地元銀行へのヒアリング活動	P.4				●			
2. 八千代町特産野菜・果物の知名度向上のための取組	P.4		●					●
3. 茨城県産食材を使用したおせちの商品開発	P.4				●			
4. 水戸市若者調査への参画（水戸市県央地区連携中枢都市若い世代のまちづくり調査研究事業）	P.5		●					
5. 梅酒ラベルデザイン・販売	P.5							●
6. 外国ルーツの子どもの日本語支援	P.5	●						
7. 茨城県立水戸南高等学校キャンパスエイド	P.5	●						
8. いばらきの地魚プロジェクト	P.6				●			●
9. 梅染め・組紐プロジェクト	P.6	●	●		●			
10. 「学校インターンシップA～C」水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校における学校支援活動	P.6	●						
11. 常磐大学×水戸ホーリーホックコラボイベントにおける集客イベントの企画・実施	P.6		●				●	
12. 期日前投票所運営支援	P.7			●				
13. 県内連携国立病院機構における臨床研究支援の活動	P.7					●		
14. 米粉消費拡大プロジェクト	P.7				●			●
15. 商品販売促進イベントの企画・実施	P.7				●			
16. 地域在住外国人のためのボランティア日本語教室の開催	P.8	●						
17. 「ときわ祭」での看護学部学生とくれよん工房（社会福祉法人）との連携	P.8					●		
18. 「常磐大学×株式会社マルト商事」商品開発プロジェクト	P.8				●			●
19. 常磐大学総合政策学部ビジネスアイデアコンテスト	P.8		●		●			
20. 那珂市静峰ふるさと公園八重桜まつり企画提案及び参加	P.9		●					
21. 日本語学校留学生のための日本語支援ボランティア活動	P.9	●						
22. 病院－大学連携事業「TOKI ² プレナース1日体験」の企画・運営	P.9	●				●		
23. 水戸市学生食育サポーター	P.9	●						●
24. 水戸市日本語プレ初級クラスサポーター活動	P.10	●						
25. 水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発プロジェクト	P.10			●	●			●
26. 水戸市総合教育研究所「つながる学び みと☆Future College」の一環としての学校支援活動	P.10	●						
27. 「今こそ考えよう！災害・防災対策シンポジウム」の開催	P.10	●	●	●				
28. 地域包括ケア演習	P.11					●		
29. ひたちなかプロジェクトマップ2024	P.11		●				●	
30. 環境芸術学会企画展「つながりと発見」	P.11	●					●	
31. 水道カフェ動画企画	P.11	●		●			●	

活動等の名称	頁	教育・国際化	地域振興	公共	経済・商品開発	健康・医療・福祉	文化・スポーツ	食物・栄養
32.MMM みなとメディアミュージアム 2024	P.12		●				●	
33. ひたちなか未来デザイン会議～ next ステージ～	P.12		●	●				
34. 災害要配慮者向け炊き出しレシピ開発	P.12			●	●			●
35. シン・いばらきメシ総選挙	P.12		●					●
36. 共同開発商品の販売	P.12		●		●			
37. 茨城県栄養士会主催「ヘルシーメニューコンクール」の推進	P.13					●		●
38.ICT マーケティング：新商品開発「酔いちご」プロジェクト	P.13		●		●			●
39. 絵本プロジェクト	P.13	●						
40. 水戸まちなかフェスティバルに、フェアトレードブースの出展	P.14	●	●		●			
41. 大切な人を亡くした子どものグリーフをサポートするボランティア養成講座、大切な人を亡くした子どもたちのグリーフサポート「ぶるーすかい」	P.14					●		
42. 「医療相談所 はなそう」のイベント参加	P.14					●		
43. 全国高校野球選手権大会茨城県大会救護所ボランティア	P.14	●				●	●	
44. 認知症サポーター養成講座	P.15					●		
45. ときわ祭における性感染症予防啓発活動	P.15					●		
46. としょかんおはなし会	P.15	●	●					
47. ふるさと納税を活用した学校法人支援制度のフィージビリティ調査プロジェクト	P.15		●	●	●			
48. 真岡珈琲との商品開発	P.16				●			
49. 日本語支援ボランティア	P.16	●	●	●		●	●	

地域との連携

本学の学内資源（知的資源、人的資源、物的資源など）を開放し、地域社会の発展や課題解決に寄与するため、自治体・企業・団体等と連携して多岐にわたる活動を行っています。

過年度の活動につきましては、本学ホームページからご覧いただけます▶



〈2024年度活動事例〉

※教員の所属・職名は2024年度現在です。

1. 地元銀行へのヒアリング活動

活動時期	2014年度～
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 文堂弘之、文堂ゼミナール3年生
協力団体	・株式会社常陽銀行 ・株式会社筑波銀行（順不同）
概要	地方銀行におけるNISAおよび環境問題などの経済・社会に関わる諸問題への取り組みを調査する。
成果	日銀グランプリに応募する論文を作成し、2014年度は優秀賞、2015年度：佳作、2017年度：敢闘賞および奨励賞、2022年度：敢闘賞、2023年度：優秀賞、2024年度：奨励賞を受賞した。



2. 八千代町特産野菜・果物の知名度向上のための取組

活動時期	2023年度～
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科 助教 高本亜希子、教授 住吉克彦、准教授 飯村裕子、健康栄養学科学生10名(現4年生)
協力団体	・八千代町産業建設部産業振興課 ・株式会社はなまるBASE（順不同）
概要	八千代町特産野菜・果物の知名度向上のための取組(レシピの考案等)。町所有のキッチンカーの活用。
成果	学生は教員とともに特産品を取り入れたレシピ作成に取り組み、「トルティーヤ」と「キッシュ」の2品を提示した。2024年5月に大学に試作料理をご持参いただき試食会を行った。その様子が茨城新聞に掲載された。



3. 茨城県産食材を使用したおせちの商品開発

活動時期	2023年度～
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、健康栄養学科学生
協力団体	株式会社カスミ
概要	茨城県産の食材を使用して、若い人に「おせち」をもっと馴染みあるものにしたという目標のため、健康栄養学科の学生がおせち料理の開発を行った。
成果	おせち料理のメインを茨城県産の食材で作成し、かつ、若い人も美味しく食べてもらえるように、レシピをアレンジして作成した。

4. 水戸市若者調査への参画 (水戸市県央地区連携中枢都市若い世代のまちづくり調査研究事業)

活動時期	2023年度～
活動場所・地域	水戸市とその周辺自治体
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 准教授 二方龍紀、小森田龍生
協力団体	・水戸市市長公室政策企画課政策審議室 ・茨城大学 (順不同)
概要	水戸市が中心となって、周辺自治体と連携しながら取り組んでいる「いばらき県央地域連携中枢都市圏 若い世代のまちづくり調査・研究事業」に、主に大学生を対象とした調査・分析の担当者として参加している。
成果	2024年度は、水戸市担当者・茨城大学と検討し、大学生・高校生を対象に定住意識や将来展望等に関する調査を行い、分析・報告を行った。2025年度も引き続き調査・分析・報告を実施する予定である。

5. 梅酒ラベルデザイン・販売

活動時期	2023年度
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、小佐原ゼミナール学生
協力団体	明利酒類株式会社
概要	常磐大学と明利酒類が開発・製造した梅酒「PRINCESS TOKIWA」の商品ラベルをリデザインした。
成果	ラベルに商品特徴に合わせたイラストを用い、金の箔押しを加えることで、より訴求力の高い商品となった。




6. 外国ルーツの子どもの日本語支援

活動時期	2023年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生
協力団体	・水戸市立五軒小学校 ・水戸市立国田義務教育学校 (順不同)
概要	水戸市内の小学校2校で、日本語での生活や学習に困難のある、外国にルーツのある子どもの日本語支援を行っている。主に学生が教室に入り込んで、教員の指示に従い、当該児童が教室活動についていけるようにサポートをしている。
成果	日常的な日本語会話にも困難のある児童に寄り添って、サポートをすることで、当該児童の積極的な授業参加の様子が見られた。また、「にほんご水戸の部屋」との連携で、学校と放課後の両方でのサポート体制を作り、それが実現した児童もいる。


7. 茨城県立水戸南高等学校キャンパスエイド

活動時期	2015年度～
活動場所・地域	茨城県立水戸南高等学校
学内参加主体	人間科学部心理学科 准教授 島田茂樹、心理学科学生9名
協力団体	・茨城県教育委員会 ・茨城県立水戸南高等学校 (順不同)
概要	フレックススクールの生徒の居場所作りの一環として大学生がキャンパスエイドとして生徒の話を聴いたり、生徒の支援にあたっている。
成果	フレックススクールのキャンパスエイド室において、生徒より年長のお兄さん、お姉さんの役割で話を聴くことによって、学校の中に生徒の居場所を作ることができた。

8. いばらきの地魚プロジェクト

活動時期	2020年度～	
活動場所・地域	茨城県	
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、飯村ゼミナール学生 総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生	
協力団体	・茨城県農林水産部漁政課 ・茨城沿海地区漁業協同組合連合会(いばらきの地魚認証委員会事務局) ・茨城水産株式会社 ・常洋水産株式会社 ・株式会社文化メディアワークス ・株式会社ヨークベニマル (順不同)	
概要	「若者の魚離れ問題」の解決のために、「どうしたら自分たちと同世代が魚に興味を持ち、食べようと思ってくれるか」の観点から茨城の地魚を使用した商品開発活動を行った。加えて、オンラインアンケート調査の実施や地魚PRのための動画の作成を行った。	
成果	2020～2021年度には、RPGゲーム風とクッキングバトルの2本の動画を作成し、HPやスーパー店頭で公開した。また、SNSによる地魚の情報発信、オンラインアンケート調査の結果を受けて3本の動画を作成し、HPで公開した。 2021年6月に「IBARAKI SABA CURRY」「IBARAKI SABA TOMATO」の商品販売を開始し、現在も店舗で販売されている。 「いばらきデザインセレクション2021」(2021年12月 主催：茨城県)：【選定】(ソーシャルデザイン部門)受賞。 2021年度 常磐大学学長賞受賞。	


9. 梅染め・組紐プロジェクト

活動時期	2022年度～	
活動場所・地域	水戸市、フィリピンBago市他	
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 准教授 小関一也、小関ゼミナール学生、学生ボランティアサークル「フェアリーテイル」	
協力団体	・水戸ユネスコ協会 ・組紐鈴木屋 ・公益財団法人オイスカ Bago Training Center(フィリピン) ・茨城県立水戸工業高等学校 ・市民グループ「木漏れ陽」他 (順不同)	
概要	梅染めと組紐の魅力を伝えるワークショップを国内外で開催した。フィリピン・ネグロス島では、現地の生産者と交流し、水戸の梅染めとフィリピンの自然染めを組紐にしたフェアトレード商品を共同開発した。	
成果	年6回のワークショップを通して、水戸工業高等学校や市民グループの「木漏れ陽」の皆さんなど多くの方と交流することができた。共同開発したフェアトレード商品は、地域の市民イベントに参加し、展示・販売した。	

10. 「学校インターンシップA～C」 水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校における学校支援活動

活動時期	2019年度～
活動場所・地域	水戸市内各学校
学内参加主体	人間科学部教育学科 特任教授 小島睦、教授 中里南子、准教授 佐藤賢一郎、助教 芦沢柚香、教育学科の1・2年生及び就職課程履修者(2019年度以降参加者合計約300名)
協力団体	水戸市教育委員会
概要	教育学科開講科目「学校インターンシップA～C」として、水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校(12校程度)を学生が訪問し、学校支援活動を行った。
成果	各学校での様々な教育活動に参加し、学校支援を行った。子どもたちと関わる中で、学生自身のキャリア形成につながったほか、授業外に学校ボランティア活動を行うための関係性を構築することができた。

11. 常磐大学×水戸ホーリーホックコラボイベントにおける集客イベントの企画・実施

活動時期	2010年度～	
活動場所・地域	水戸市	
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生	
協力団体	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック	
概要	2010年度より、常磐大学は水戸ホーリーホックとの連携協定をもとにした「学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデー」(公式試合)を実施しており、その中で経営学科は集客につながるイベントを提案・実施してきた。2024年度より、常磐大学×水戸ホーリーホックコラボイベントを実施。	
成果	2010年度より累計62の集客イベントを実施してきている。	

12. 期日前投票所運営支援

活動時期	2016年度～
活動場所・地域	常磐大学見和キャンパス
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、砂金ゼミナール学生等
協力団体	水戸市選挙管理委員会
概要	各種選挙において常磐大学構内に設置される期日前投票所において、学生が立会人を務めているほか、投票率向上のための様々な取り組みを実施している。
成果	オリジナルのチラシの作成とときわんこによる配布、ウエルカムドリンクの提供、簡易託児所の設置など、毎回趣向を凝らして投票率の向上に努めている。



13. 県内連携国立病院機構における臨床研究支援の活動

活動時期	2018年度～
活動場所・地域	独立行政法人国立病院機構・水戸医療センター・霞ヶ浦医療センター
学内参加主体	看護学部看護学科 《2018～2023年度》 准教授 菅原直美、南雲史代、萩野谷浩美、福田大祐 専任講師 井上顕子、梅井尚美、田村麻里子、山口幸恵、助教 及川けい子、脇田泰章 《2024年度現在》 准教授 角智美、福田大祐(総括)、専任講師 石井歩、梅井尚美、山口幸恵、助教 脇田泰章
協力団体	独立行政法人国立病院機構 ・水戸医療センター ・霞ヶ浦医療センター (順不同)
概要	本学と各施設の連携協定のもと臨床現場の看護師を対象に研究支援を行っている。年間研修として看護研究の基礎的知識を修得する基礎コースと研究を主体的に実践し成果を発表する実践コースを設けて活動を続けている。
成果	両コース合わせこれまでに看護師約570名の参加があり、約100課題の臨床研究を支援してきた。研修後のアンケート結果では研修満足度と目標達成度が高く得られ、実践コースでは院外での研究発表にもつながっている。



14. 米粉消費拡大プロジェクト


活動時期	2019年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、村中ゼミナール学生
協力団体	水戸市穀物改良協会(水戸市産業経済部農政課)
概要	2019年度は米粉に関するアンケート調査を実施し、2020年度はSNSによる米粉の情報を発信し、2021年度はSNSによる米粉スイーツの情報発信と米粉の認知・イメージに関するオンラインアンケート調査を行い、2022年度は、水戸産米粉商品PR資材の提案、SNSによるPR(商品と店舗)、さらに販売促進のためのオンラインアンケート調査を実施し、2023年度はSNSによるPR(商品と店舗)を行った。
成果	2023年11月1日発行の水戸市の広報誌である「広報みと」に、米粉消費拡大プロジェクトの内容が特集記事として掲載された。

15. 商品販売促進イベントの企画・実施

活動時期	2010年度～
活動場所・地域	株式会社水戸京成百貨店
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「ビジネス専門演習b」履修学生
協力団体	株式会社水戸京成百貨店
概要	2010年度より1月上旬2日間にわたって百貨店内での商品販売促進(実際に商品を販売する)イベントを行っている。イベント実施前の3ヶ月間はSNSを利用したPRを行う。
成果	2010年度より累計34の商品販売促進イベントを実施してきている。 2015年度 常磐大学学長奨励賞受賞。




16. 地域在住外国人のためのボランティア日本語教室の開催

活動時期	2022年度～	
活動場所・地域	水戸市	
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生など約20名	
協力団体	公益財団法人水戸市国際交流協会	
概要	水戸市国際交流センターでボランティア日本語教室「にほんご水戸の部屋」を週1回開催している。学生と一般市民とが協力し、小・中・高校生から社会人までの、地域在住外国人への日本語支援を行っている。	
成果	2023年度は外国にルーツを持つ小・中・高校生、大学生・社会人合わせて延べ30名ほどの参加者があった。7月と12月には学生と留学生が中心となって教室のお祭りを開催し、地域住民を合わせて60名ほどの参加を得た。	


17. 「ときわ祭」での看護学部学生とくれよん工房（社会福祉法人）との連携

活動時期	2018年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	看護学部看護学科 学生(2018年度～2023年度の1,2年生) 看護学部学生支援委員
協力団体	社会福祉法人くれよん(くれよん工房)
概要	2018年度の学部開設時から、「ときわ祭」において、くれよん工房の利用者の方が作られた菓子類や小物類を学生たちが委託販売したり、学生と利用者の方が一緒に販売することを続けている。
成果	学生がくれよん工房を訪れた際に作業の様子を見学させて頂いたり、「ときわ祭」で学生と利用者が一緒に販売を行う事を通して交流する機会を得たことは、看護学部の学生にとって貴重な経験となっている。

18. 「常磐大学×株式会社マルト商事」商品開発プロジェクト

活動時期	2022年度～	
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、飯村ゼミナール学生	
協力団体	株式会社マルト商事	
概要	管理栄養士を目指す学生の学びを活かしたプロジェクトとして、商品開発を実施した。テーマは「野菜摂取量の増加」であり、茨城県産野菜を使用した商品を検討した。	
成果	開発した商品は、サラダパック、餃子、どら焼きの3品。それぞれに茨城県産の野菜を使用しており、販売時のポップなどにも力を入れた。これら商品は、スーパーマルト36店で販売された。	

19. 常磐大学総合政策学部ビジネスアイデアコンテスト

活動時期	2016年度～	
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 菅田浩一郎、文堂弘之、経営学科3年生	
協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構 ・茨城県よろず支援拠点 ・株式会社日本政策金融公庫水戸支店 ・株式会社茨城新聞社 ・年度別の協力企業 (順不同) 	
概要	各年度にて協力していただける地元企業の経営課題を解決するビジネスアイデアを学生が提案する。	
成果	協力企業に対して、学生らしい斬新なビジネスアイデアを提供することができ、学生には地元企業との実践的な連携活動経験を提供することができた。	

20. 那珂市静峰ふるさと公園八重桜まつり企画提案及び参加

活動時期	2018年度～
活動場所・地域	那珂市静峰ふるさと公園 ほか
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 正木聡、正木ゼミナール3年生
協力団体	那珂市産業部商工観光課
概要	例年、那珂市静峰ふるさと公園で4月に行われている八重桜まつりに、総合政策学科の正木ゼミナール生が参加して、ライトアップとブース出展を事前に企画内容を那珂市商工観光課にプレゼンテーションを行い実施した。
成果	「八重桜」をイメージして約300個のピンク色のセロファンを貼ったキャンドルを作成して、来場者の方々が足を止めて写真を撮ったり、自身で作成した灯籠と一緒に写真を撮ったり、楽しんでいるような様子であった。2024年度は、正木ゼミナール生が那珂市商工観光課とともに東京永田町の都道府県会館で、関東ブロック物産観光連絡協議会主催の観光記者会において活動の発表を行なった。



21. 日本語学校留学生のための日本語支援ボランティア活動

活動時期	2021年度～
活動場所・地域	日立市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生など
協力団体	日立さくら日本語学校
概要	2021年度以降、日立さくら日本語学校から依頼を受け、主に日本語教師を目指す学生が、留学生の日本語学習のサポートや、日立国際文化祭りに参加する留学生のサポートなどを行っている。
成果	毎年11月に行われる日立国際文化祭りに参加する留学生をサポートするため、3、4名の学生がボランティア活動を行っている。その他、日本語学習のサポートは不定期に依頼があり、その都度、学生が対応している。

22. 病院 — 大学連携事業「TOKI²プレナス1日体験」の企画・運営

活動時期	2018年度～ ※2020年度はCOVID-19の影響により中止
活動場所・地域	常磐大学桜の郷キャンパス 他
学内参加主体	看護学部看護学科広報委員
協力団体	独立行政法人国立病院機構水戸医療センター看護部
概要	看護職および本学看護学部への興味を深めるため、看護に関心がある高校生対象に、本学科授業体験、水戸医療センターの看護師との交流を通して、看護学生、看護職の具体的なイメージができるよう運営している。
成果	毎年、短期間で募集人数に達し、人気が高い。参加者からは、看護や看護職について具体的にイメージでき、より興味をもてたと好評である。その後、本学看護学部へ入学する参加者もいて、学生確保にもつながっている。



23. 水戸市学生食育サポーター

活動時期	2015年度～
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科学学生
協力団体	水戸市教育委員会学校給食共同調理場
概要	健康栄養学科の2～4年生（教職課程履修者含む）が、水戸市立小中学校からの依頼を受け、食育活動の支援員として児童・生徒および保護者に対して食育に係わる情報の提供や活動の補助等を行う。
成果	依頼に応じて、給食時の食育指導や調理実習の補助などを実施した。また、水戸市全体向けの活動として、給食の献立開発や、食育媒体作成、食育講演会での発表など様々な活動を行っている。

24. 水戸市日本語プレ初級クラスサポーター活動

活動時期	2020年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生
協力団体	公益財団法人水戸市国際交流協会
概要	水戸市国際交流協会が地域在住外国人向けに開催する入門日本語教室で、飯野教授はコーディネーターを務めている。学生は教室の担当講師の指示のもと、教室活動のサポートをボランティアで行っている。
成果	主に日本語教師養成課程の科目を履修する学生が、プロの日本語教師が講師を務める日本語クラスに参加し、日本語学習を支援する体験をしている。2020年度以降、毎年2、3名の学生が継続的に参加している。



25. 水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発プロジェクト

活動時期	2022年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生
協力団体	・水戸市財務部税務事務所市民税課 ・東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 (順不同)
概要	2022年度に経営学科「マーケティング演習」で水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発の提案を行い、2023年度は2022年度に提案のあった案を、実際のふるさと納税返礼品として開発した。
成果	学生が考案した「第20回水戸納豆早食い世界大会参加券(わら納豆12本セット付)」が、2024年1月5日に水戸市から、ふるさと納税返礼品(水戸黄門ふるさと寄附金の謝礼品)として登録・プレスリリースされた。また大会は2024年3月9日に開催され、ゼミナール学生が大会運営ボランティアとして参加した。


26. 水戸市総合教育研究所「つながる学び ひと☆ Future College」の一環としての学校支援活動

活動時期	2023年度
活動場所・地域	水戸市立柳河小学校
学内参加主体	人間科学部教育学科 准教授 石崎友規、教育学科4年生
協力団体	水戸市教育委員会
概要	水戸市教育委員会と常磐大学との連携事業「つながる学び ひと☆ Future College」の一環として、小学校でのSDGsをテーマとした探究的な学習のサポートを行った。
成果	小学生が大学生と意見交換をしたり、大学生が学習支援したりすることで、小学生の学習に対する意識や態度が向上した。また、学生自身も探究的な学習における子どもたちとの関わり方を理解することができた。


27. 「今こそ考えよう！災害・防災対策シンポジウム」の開催

活動時期	2024年度
活動場所・地域	常磐大学見和キャンパス
学内参加主体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール3年生・2年生
協力団体	《後援》 ・茨城県、大洗町 《協力》 ・いばらき政策・法務研究会 《パネリスト》 ・政策研究大学院大学・教授 ・大洗町長 ・那珂市議会議員 ・茨城県防災・危機管理部長 (順不同)
概要	1年間ゼミナール学生が研究した「災害・防災対策・認識」に関する事例報告と防災の専門家、首長、議員、行政の方をパネリストに招いてディスカッションを行った。
成果	ゼミナール学生による災害・防災対策・認識の事例報告、政策研究大学院大学・教授による基調メッセージを踏まえ、パネルディスカッションでは、各分野の専門家による意見交換が積極に行われ、住民を守るために自治体はどうあるべきかについて議論できた。多くの一般者が来場し、学生報告や関連なパネルディスカッションへの高い評価をいただいた。


28. 地域包括ケア演習

活動時期	2021年度～	
活動場所・地域	北茨城市	
学内参加主体	看護学部看護学科 ≪2024年度≫ ・専任講師 田村麻里子、石井歩、梅井尚美、横山和世、助教 油谷和恵、井坂恵、福岡知子、新妻靖子 ・看護学部4年生 88名	
協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北茨城市市民福祉部高齢福祉課 ・北茨城市コミュニティケア総合センター「元気ステーション」 ・社会福祉法人北茨城市社会福祉協議会 ・北茨城市民病院 ・大津漁業協同組合 ・自主グループあしたば ・訪問看護ステーション collabo ・医療法人秀仁会 元気の郷大津おはよう館 (順不同) 	
概要	北茨城市の各施設を訪問し、地域住民や看護職者へインタビューを実施する。その結果をまとめ、「地域包括ケアシステム」や「地域の看護職の役割」について学び、理解を深めている。	
成果	科目のまとめとして、地域の関係者を招待し、学修成果発表会を実施している。地域包括ケア演習を通して地域住民と交流することは、本学部が目指す「地域でその人らしく健康に暮らすことを支える看護」ができる人材育成の一助となっている。	


29. ひたちなかプロジェクトマッピング2024

活動時期	2024年11月16日	
活動場所・地域	ひたちなか市	
学内参加主体	コミュニケーション学科・准教授・小佐原孝幸 M4	
協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ひたちなかプロジェクトマッピング実行委員会 ・ひたちなか海浜鉄道(株) 	
概要	ひたちなか海浜鉄道湊線の鉄道車両への地域をテーマとした映像作品の投影。 実施日：2024年11月16日(土) 場所：ひたちなか海浜鉄道湊線那珂湊駅	
成果	「茨城の魅力」をテーマに、県内外の4つの高校(那珂湊高校、笠間高校、神奈川工業高校)と常磐大学の学生が映像を制作、好評を博した。来場者数約300名。	

30. 環境芸術学会企画展「つながりと発見」

活動時期	2024年12月8日～15日	
活動場所・地域	水戸市	
学内参加主体	コミュニケーション学科・准教授・小佐原孝幸 コミュニケーション学科学生	
協力団体	環境芸術学会	
概要	環境芸術学会25周年を記念した企画展。設営や受付など、コミュニケーション学科の学生が運営に参加。 開催日：2024年12月8日(日)～15日(日) 場所：水戸市民会館	
成果	全国の大学から研究者やアート関係者が来場。好評を博した。また同時開催の学会大会ではコミュニケーション学科3年の学生が優秀学生プレゼンテーション賞を受賞した。	

31. 水道カフェ動画企画

活動時期	2025年1月～2月	
活動場所・地域	城里町	
学内参加主体	コミュニケーション学科・小佐原孝幸ゼミナール学生3名	
協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・城里町役場水道課 ・横浜ウォーター株式会社 	
概要	城里町役場水道課の企画「水道カフェ」の記録映像の制作。 イベント実施日：2025年1月23日(木) 場所：城里町役場	
成果	来場者インタビューなどを行い、10分程度のYouTube用の映像を制作した。	

32. MMM みなとメディアミュージアム 2024

活動時期	2024年度
活動場所・地域	ひたちなか市
学内参加主体	コミュニケーション学科・准教授・小佐原孝幸 M4
協力団体	・NPO法人みなとメディアミュージアム ・ひたちなか海浜鉄道（株）
概要	ひたちなか海浜鉄道湊線を舞台に展開するアートプロジェクト 会期：2024年8月18日（日）～9月1日（日） 会場：ひたちなか海浜鉄道湊線沿線
成果	M4スタッフが作品の設営・撤収・各展示会場の常駐を担当した。



33. ひたちなか未来デザイン会議～ next ステージ～

活動時期	2024年度
活動場所・地域	ひたちなか市
学内参加主体	コミュニケーション学科・准教授・小佐原孝幸 M4
協力団体	ひたちなか市企画調整課
概要	「ひたちなか市第4次総合計画」の策定のための市民ワークショップ 日程：2025年1月25日（土） 会場：ホテルクリスタルパレス
成果	ひたちなか市からの要請を受け、常磐大学を代表してM4で参加。市民と一緒に、ひたちなか市の未来像について話し合った。この内容をもとに2026年度から「ひたちなか市第4次総合計画」がスタートする。



34. 災害要配慮者向け炊き出しレシピ開発

活動時期	2024年度～
活動場所・地域	常磐大学見和キャンパス、日本赤十字社茨城県支部
学内参加主体	健康栄養学科・教授・住吉克彦（住吉ゼミナール所属学生）10名
協力団体	日本赤十字社茨城県支部
概要	近年日本では地震や台風など、様々な自然災害が頻発し、避難生活が長期化する場合、被災者の方々、特に高齢者や障がい者、乳幼児、外国人などの要配慮者の方への食事支援が重要とされている。日本赤十字社茨城県支部との連携により行う。
成果	2024年度に10種類のレシピを考案し、日本赤十字社茨城県支部において、2025年1月15日に発表式（お披露目会）を行った。

35. シン・いばらきメシ総選挙

活動時期	2024年10月12日～2024年10月14日
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	健康栄養学科・教授・住吉克彦（住吉ゼミナール所属学生）10名
協力団体	茨城県政策企画部地域振興課
概要	シン・いばらきメシ総選挙2024への出展
成果	2023年度にパティスリー・シャロンとの共同開発考案をしたスポーツ補食「TOKIWA ぼてらん」の販売を行った。


36. 共同開発商品の販売

活動時期	2024年12月15日
活動場所・地域	笠間市
学内参加主体	健康栄養学科・教授・住吉克彦（住吉ゼミナール所属学生）10名
協力団体	パティスリーシャロン
概要	2024 かさま陶芸の里ハーフマラソン大会において「TOKIWA ぼてらん」出店・販売
成果	2023年度にパティスリー・シャロンとの共同開発考案をしたスポーツ補食「TOKIWA ぼてらん」の販売を行った。


37. 茨城県栄養士会主催「ヘルシーメニューコンクール」の推進

活動時期	2021年、2022年、2023年、2024年推進中（毎年年1回実施）
活動場所・地域	茨城県栄養士会 / 常磐大学 / 水戸市内
学内参加主体	2023年度は ・教員：健康栄養学科 准教授 澤田樹美 ・学生：健康栄養学科（エントリー人数6名；優秀賞受賞1名） 2024年度 実施中のため、後日報告
協力団体	茨城県栄養士会（協力団体ではなく、栄養士会が主催となり、連携し開発の推進をしています。）
概要	栄養教育論の授業を通して「茨城県栄養士会主催ヘルシーメニューコンクール」の呼びかけをし、食塩控えめ（3g以下）で野菜たっぷり（150g以上180g以下）、エネルギーが600～800kcalのメニュー開発に挑戦しました。
成果	「美味しおうちめし部門」にて、健康栄養学科の坂田遥香さん（受賞時3年生）が開発したメニュー『ワンプレートで野菜たっぷりヘルシーチキン』が、応募全103品の中から優秀賞に選ばれました。

38. ICTマーケティング：新商品開発「酔いちご」プロジェクト

活動時期	2024年～	
活動場所・地域	有限会社ぬりや（MitoBrewing 大工町醸造所）、萩谷いちご園、京成百貨店、みちの駅ひたちおおた、茨城県、常磐大学	
学内参加主体	プロジェクト担当教員：経営学科・准教授・奥野辰広 参加学生：ビジネス専門演習d 2024年度履修学生：5名（奥野ゼミナール所属）	
協力団体	水戸市：有限会社ぬりや（MitoBrewing 大工町醸造所） 水戸市：京成百貨店 常陸太田市：萩谷いちご園 常陸太田市：みちの駅ひたちおおた 茨城県：茨城県営業戦略部	
概要	2024年度から「ビジネス専門演習d」の授業で地域活性化の取り組みとして、産学協同で地域資源を活用した6次産業化による新商品開発およびICTを活用したマーケティング・PRを産官学連携で実施した。	
成果	「いばらキッス」を使用したいちごビールの醸造、新商品開発に関するマーケティング・PR支援や茨城県と連携し広報活動を展開した。また、京成百貨店、道の駅ひたちおおたで販売イベントを行った。	

39. 絵本プロジェクト

活動時期	2023年度～	
活動場所・地域	水戸市：常磐大学、水戸市立西部図書館、水戸市立常磐小学校、水戸市立見川小学校、フィリピン・バゴ市：Bago City University, OISCA Bago Training Center, タイ・チェンマイ市：Chiang Mai Rajabhat University	
学内参加主体	総合政策学科・准教授・小関一也、小関ゼミ生とフェアリーテイル（学生サークル）	
協力団体	水戸市：常磐大学、水戸市立西部図書館、水戸市立常磐小学校、水戸市立見川小学校、茨城大学 Study For Two（学生団体）、フィリピン・バゴ市：Bago City University, OISCA Bago Training Center, タイ・チェンマイ市：Chiang Mai Rajabhat University	
概要	家庭で読まれなくなった絵本を回収して、海外で日本語を勉強する若者たちに届け、日本語や日本文化を知るための教材として利用してもらおうプロジェクト。学生が直接フィリピンとタイを訪問し絵本を届けている。	
成果	3年目を迎え、近隣の小学校や図書館なども参加し広がりをみせている。絵本を直接届けるだけでなく、現地で絵本の魅力を伝えるワークショップを開催したり、現地の様子を小学生に報告したりしている。	

40. 水戸まちなかフェスティバルに、フェアトレードブースの出展

活動時期	2017年度～
活動場所・地域	水戸市・水戸まちなかフェスティバル
学内参加主体	総合政策学科・准教授・小関一也、小関ゼミとフェアリーテイル（学生サークル）
協力団体	フィリピン・バゴ市：OISCA Bago Training Center、水戸市：水戸まちなかフェスティバル実行委員会
概要	小関ゼミとフェアリーテイル（学生ボランティアサークル）では、フェアトレード活動の普及・推進を目指して、フェアトレードブースの出展を続けてきた。フィリピン・ネグロス島で手作りされた絹製品を中心に展示・販売している。
成果	2017年度から、台風やコロナ禍での中止を除き、毎年フェアトレードブースを出展してきた。本学のブースを楽しみにしてくださる市民の方もおり、小さな力ではあるが、水戸市のフェアトレード推進に貢献している。



41. 大切な人を亡くした子どものグリーフをサポートするボランティア養成講座、大切な人を亡くした子どもたちのグリーフサポート「ぶるーすかい」

活動時期	2019年度～
活動場所・地域	常磐大学
学内参加主体	看護学部看護学科 教授 池内彰子、教授 村井文江、准教授 南雲史代、准教授 中田久恵、助教 長谷川陽子、助教 新妻靖子、教務助手 瀧平喜子 学生 14名
協力団体	任意団体常磐大学グリーフサポートいばらきぶるーすかい
概要	・ボランティア（ファシリテーター）養成講座の開催 ・対象の子どもに対するグリーフプログラムの開催（2024年度は開催できず）
成果	大切な人を亡くした子どもをサポートする、2日間のファシリテーター養成講座を開催し、42名が受講した。子ども達のグリーフへの理解を深め、今後のファシリテーターとしての参加意欲を高めることができた。

42. 「医療相談所 はなそう」のイベント参加

活動時期	2024年度9月19日
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	養護教諭課程 准教授 海老澤恭子 看護学部 養護教諭課程2,4年生 5名
協力団体	合同会社メビウスメディカル
概要	なんでも相談できる医療相談所 HANASOW はなそうのイベント（CPR講習会、アートワークショップ等）に参加し、地域社会における共創（新たな自助・共助）の文化を理解し交流を深める。
成果	不登校・学校しぶりの親子の会のワークショップに参加した。一緒にゲームをする等、時間を共有することで自然な流れのなかで学校に行けない、学校に行かない児童生徒の気持ちとその保護者の気持ちに触れることができた。

43. 全国高校野球選手権大会茨城県大会救護所ボランティア

活動時期	2024年7月12日～7月27日
活動場所・地域	ノーブルホームスタジアム水戸
学内参加主体	看護学部 准教授 海老澤恭子 看護学部 養護教諭課程3,4年生 6名
協力団体	(一財)茨城県高等学校野球連盟
概要	第106回全国高等学校野球選手権大会茨城大会の救護所において、野球応援に来場した高校生と一般観客、および出場選手の救護活動にあたる担当者の支援（お手伝い）にあたった。
成果	学生は、毎試合の観客動員数が3,000～4,000名のマスギャザリングイベントにおける救護体制の在り方を学んだ。多職種連携による救急処置やスポーツ障害予防の取り組みを目の当たりし、学校救急看護は教育的活動の一環であることを理解することができた。運営に携わる県内の高等学校の教職員や警察官OBに、常磐大学看護学部の認知度が高まった。

44. 認知症サポーター養成講座

活動時期	2024年度～
活動場所・地域	常磐大学見和キャンパス、水戸市民会館
学内参加主体	看護学部 教授 野尻由香、准教授 黒田暢子、准教授 門間智子、専任講師 梅井尚美
協力団体	水戸市高齢福祉課地域支援センター
概要	認知症の方の理解を深め、地域に貢献できる学生を育成するための一環として、本学学生の認知症サポーターの養成を実施した。
成果	3学部の学生が参加し、76名の新たな認知症サポーターが誕生した。

45. としわ祭における性感染症予防啓発活動

活動時期	2024年度～
活動場所・地域	常磐大学見和キャンパス、水戸市民会館
学内参加主体	常磐大学看護学部生
協力団体	水戸市保健所感染症対策課
概要	水戸市保健所感染症対策課とのコラボで学園祭において若者に急増中の性感染症に関する予防啓発活動を実施した。その後、地域連携学会で活動報告を行った。
成果	学園祭（10/18・19）では来場に性感染症予防啓発パンフレット等を配布予定である。啓発ポスター・ティッシュのチラシは、学生が作成したものをを使用した。

46. としょかんおはなし会

活動時期	2022年度～
活動場所・地域	水戸市立見和図書館
学内参加主体	幼児教育保育学科 准教授 木村由希、参加学生 2024年度39名
協力団体	水戸市立見和図書館
概要	水戸市立見和図書館において、主に0～2歳児を対象に読み聞かせ活動「おはなし会」を行っている。授業や実習等で修得した保育技術（読み聞かせ、手遊び・歌遊び等）を公共の場で実践し、地域の親子に楽しんでもらう機会となっている。
成果	実施回数13回、参加のべ人数は大人120名、子ども145名であった。クリスマス会の企画運営も行い、子ども26名、大人22名が参加した。保育者養成校学生の学びや力を地域の方々に伝える機会になった。


47. ふるさと納税を活用した学校法人支援制度のフィージビリティ調査プロジェクト

活動時期	2024年度
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生
協力団体	・水戸市財務部税務事務所市民税課 ・常磐大学会計経理課
概要	2024年度経営学科「マーケティング演習」で、常磐大学でふるさと納税を活用した学校法人支援制度を活用できるか、そのニーズや可能性について、常磐大学関係者（教職員・OBOG等）へのアンケート調査を行い、その結果を踏まえた提案を行った。
成果	2025年度からふるさと納税を活用した学校法人支援制度が導入される。

48. 真岡珈琲との商品開発

活動時期	2024 年度
活動場所・地域	栃木県真岡市
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科 准教授 秋山隆、秋山ゼミナール学生
協力団体	自家焙煎真岡珈琲ソワカフェ・寺内駅舎
概要	コーヒーを媒体としてコミュニティーを拡げる試み。 世代を超えたコミュニティーを拡げることで、年齢を問わない社会活動と社会交流を充実させ、健康寿命の延伸に繋がることや、健康づくり政策における様々なヘルスプロモーティング・コミュニティーの推進を通じて、人生 100 年時代における健康長寿に繋がることを目指している。
成果	ときわブランドのドリップバック珈琲の開発・販売。茨城新聞に掲載された。学内から学外に常磐大学・ときわんこを発信できる自信を得て、就職時にもアピールでき、社会人となってもコミュニケーションを拡げるハードルを下げ母校愛が高まることに期待ができる。

49. 日本語支援ボランティア

活動時期	水戸市国際交流センター：2022 年度～、水戸市立五軒小学校：2022 年度～ 2023 年度、水戸市立国田義務教育学校：2023 年度～、その他：2024 年度～	
活動場所・地域	水戸市国際交流センター、水戸市立五軒小学校、水戸市立吉沢小学校、水戸市立内原中学校、水戸市立国田義務教育学校、茨城町立葵小学校、茨城町立青葉中学校、笠間市友部公民館	
学内参加主体	コミュニケーション学科 教授 飯野令子、教育学科 准教授 石崎友規、常磐大学日本語サポーター（コミュニケーション学科、教育学科、その他）、学生数約 30 名	
協力団体	水戸市国際交流協会、水戸市教育委員会、茨城町教育委員会、笠間市教育委員会	
概要	水戸市国際交流センターで「にほんご水戸の部屋」を開き、地域在住外国人への日本語支援ボランティアを行っている。また、水戸市と茨城町の小中学校、笠間市の公民館で、外国ルーツの幼児・児童・生徒への日本語支援をしている。	
成果	「にほんご水戸の部屋」を毎週木曜の夜に開き、毎回、地域在住外国人の子どもから大人まで、15 名程度が参加している。また、水戸市・茨城町の小中学校・笠間市公民館で支援する幼児・児童・生徒は計 13 名となっている。	

地域への還元

本学では、教育研究成果を地域に還元するために、次のような活動を行っています。

講演会・研修会等への教員の派遣

自治体・企業・団体等が開催する講演会・研修会等に本学教員を派遣しています。

審議会等への教員の派遣

自治体等の各種審議会等委員に学識経験者として本学教員を派遣しています。

審議会等への学生の派遣

自治体等の各種審議会等委員に自治体等の求めに応じて本学学生を派遣しています。

学生のボランティア活動（学生への案内）

学生のボランティア活動（地域貢献活動）を自己成長の機会として位置づけ、公益性、公共性が高く、学生が行う活動として有益で教育的配慮のあるものとして本学が認める活動について、募集情報等を学生に提供しています。（※募集の取り纏めは行っておりません。）

〈過去の事例〉

- 市町村・社会福祉協議会等の実施する学習支援事業
- 各種社会福祉施設の実施するイベント（夏祭り、収穫祭 他）運営補助
- 地域自治体等で開催されるお祭り・スポーツイベント等における運営補助 など

公開講座「オープンカレッジ」の開講

地域連携研究支援センターの開講する公開講座の総称が「オープンカレッジ」です。本学の持つ教育資源を地域社会へと還元し、人々の多様な学習ニーズに応え、新たな学習意欲や自己実現を支援するとともに、開かれた学びの場として、学習機会を提供しています。

〈2024 年度の開講講座〉

- ・からだを弛めてこころ生き生き
- ・人生最期の過ごし方
- ・安全安心な共生社会のための犯罪心理学さんぽ
- ・おもしろ理科実験講座
- ・こどもナース入門
- ・トキワであそぼ！トキワでまなぼ！（Part.1～Part.3）
- ・高校生×SDGs
- ・高校生からの法学入門
- ・メディア・リテラシー講座
- ・健康食品って知っていますか？
- ・保育体験：子どもとあそび
- ・看護の幅広さを知ってみよう
- ・高校生として、「がん」を知ろう！
- ・知覚・認知心理学（認知）
- ・社会・集団・家族心理学（家族）
- ・地域研究（アジア）Ⅰ
- ・人文地理学Ⅰ
- ・歴史学
- ・私たちの悩みの9割は「人間関係」
- ・大人の算数・数学教室
- ・大切なひとを看取るとは
- ・美術館めぐりの旅
- ・人生100年時代の夫婦と親子
- ・地球環境問題を「科学的に考える」
- ・こころの健康と睡眠
- ・常磐大学看護実践セミナー
- ・職場学習の心理学
- ・交通地理学
- ・文化社会学

〈2025 年度（春夏）の開講講座〉

- ・人間関係を円滑にするアンガーマネジメント
- ・映画で読み解く人生と社会
- ・国連で働くということ
- ・自由研究に役立つ理科実験講座
- ・こどもナース入門
- ・おもしろ理科実験講座
- ・国連で働くということ
- ・図書館司書になるためのキャリアガイド
- ・ポスト・SDGs 社会のための法学入門
- ・メディア・リテラシー講座「フェイクニュース」に
対抗する
- ・アプリで健康診断
- ・高校生に知ってほしい看護の世界
- ・高校生として、「がん」を知ろう！
- ・健康食品って何だろう？
- ・知覚・認知心理学（認知）
- ・感情・人格心理学
- ・歴史学
- ・地域研究（アジア）Ⅰ



社会人向け教養講座の様子



小学生向け体験実験講座の様子

発 行 2025年10月

発行者 常磐大学地域連携研究支援センター
〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1
TEL.029-232-2652 FAX.029-232-2861
renkei@tokiwa.ac.jp
<https://www.tokiwa.ac.jp/>



TOKIWA